

於
乙
午
年

東方
學林

繪本通俗三國志初編卷之四

目錄

曹操謀殺董卓

曹操起兵伐董卓

呂布大戰虎牢關

繪本通俗三國志 初編卷之四

曹操謀殺董卓

曹操家ようへりて夜まで明月と直ちに相府よ出。董丞相へ何くよ居ゆべどと問ひ曉より書院よ居ゆふことへ行て刃をば董卓床乃上よ坐と呂布うそひて侍立せり。董卓が曰く曹操あよそちをく走れ。曹操答て曰く馬瘦て路をくひ董卓が曰く。され西涼又名馬をひたり。呂布一匹あらびきたりと曹操み与をよ。呂布承ひりて出けと。曹操心内あれよそ天の助けよと思ひとでよ刀を抜んと。いやく董卓ハ元來大力うす。卒尔えちうぶこさんと思ひ。しもらく窺居なるとあろ。董卓ハ一身肥ふくれて常にぐく坐むとあたまを。やあく横にうづ背を向

て臥けれり。曹操ともやよき財才ぞと思ひ急よ刀をねき。且
へ董卓そぞうる鏡乃影はく其体を刃はけげど起あぐ。曹
操もよろとどもとど云ける。財呂布もすでよ回りきたまう。曹操
仕損ド。刀をあましべきやうも。かむ騒ぶ体を柄を取直す。ひざがむ
さげて曰く某らは名譽乃力を求ヒ。歎まほらん為よ帶き
たまう。董卓手よどりて天晴よき刀うれ。大見よどりて呂布よ渡
き。曹操又鞞を与へり。呂布又ひりて鞞に収む董卓馬を引
せけ。曹操謝して曰く願く御前よこまくとに乗ゆ。董卓
うそとて鞍を立せけ。曹操急よ飛乗。鞞を加へ行方へり。
失よけり。呂布旨く。さきよ曹操が刀の献はりゆう不思議ある体
あり。なふさみ仔細あく。董卓旨く我も心内ふくわや

む。今又急よ逃たる。ひきうち事のゆへわらん。財よ李儒より来り
りし。董卓右のひきうちを委く。認る。李儒が曰く。曹操が妻子
一族三の都乃外よひ。必定君を祖りひん。早く人を遣して呼
え。彼二心うきが泰べ。泰ぞんぞ。たちまち生貯と拷問ぢ
し。董卓あれまがひ番り兵六七騎よ命下して急ぎ曹操を呼返
さしむ。暫らくあく。其人をと曰く。曹操さたよ黄うる馬よ
乗く。せぐと東門よきたる。門を守る者も。何へ生りよぞとな
ねられ。某急ち。御使よ出る。うりと。関所を超え走り去り。李儒
が曰く。是をうらじ。奉國よりて事を發さん。為ち。董卓大よ怒こ
曰く。我曹操を愛してあく。恩をほむ。今却て我を害せん。
まくひゆうとまき其とすを画よ描し。國によ觸て生貯しめん。

生取きたる者より千金を与へ萬戸候は封せられ。李儒曰「人よと
ひひり下うるらで同謀の者あらん生取く拷問をじこと衣服摸
査をつまびらかに繪よ写し。日夜を分ふべからず郡へ觸まつて曹操
の追手定めこらんと思ひ譙郡を志びて落行するが中牟縣を
もぐる。又関守を止て曰く朝廷より曹操を捕へまと觸り。你よ
繪図よ似ら。名を聞んとて取まされ。曹操が曰く我ハ皇甫ノ氏
ちう。今西多よりあらん來れり。関守ども兎角此ちよまだきほと
て奉行所はそよあらん。曹操が曰く。他國のものあるとぞ
卒尔に仕る。奉行やく。都は先年曹操を見知りたり。
いやや衣服をゆき益く繪図よらう。とて車の上は傳はす。さ
らに明日都は送り上せ。萬戸侯は封せらま。千金をひて諸人は

分らうへんとて酒宴を設けて喜びをあー暮はなんぞ退散せり
夜は入る。奉行密は曹操を引出して曰く。你の都は在と車を董卓
相用ひら。とやうが。又ゆへよ是のとくある曹操が曰く。燕雀
いづんぞ鴻鵠の志を知ん。你とぞは我を生取なり。早く都は送りそ
恩賞を被む。奉行笑て曰く。你とぞと軽んざうとあらん。我
も冲天の志あり。けがゆきをあふゆきをもあまと恨む曹操が曰く
我ハ相國曹叅が後にして四百余年間漢の禄を食へ。因にら
ざま禽獸の。我あらんぞ身を屈と董卓は仕う。実よ忠を
盡して國の為よ賊を伐んと思ひ。よ天運いまゞ付つてらば。
えんぞ嗟とせん奉行向て曰く。御辺今何へ。やうんとも。曹
操が曰く。故郷より天ト乃諸侯をあそめて義兵を起



董卓を誅せんと思ひに運つて生取たり。你再も問ふ
とあられ奉行いそだ自ら其縛を解席よ請じて酒をくめ再
拜してやうべ御辺へても忠義の士あり。我ねが君官を棄て
相伴ゐるものゝ義兵を起はば。曹操入よすらゆき其姓名と
益々東郡まゆう。どもれ志を含せ。衣服を代馬をあらためて落
問へ奉行答へ曰く。我ハ陳宮字ハ公臺とひのとある。老母妻子
やうと。夜まだ明ざる。二人うちは是日夜を分けて路をと
ひ。三日よ成早とひぬまづいり。またびは暮よなびはる。曹操
が曰く。あれある林内よ。呂伯奢といふをめり。昔某が父と兄
弟つゞく交きり。今夜まの家よ一宿して明日又路を急ぐ
陳宮あらうだと。二人馬よりやく。彼宮よやうふと。家主の呂

伯奢大よふぞうひて曰朝廷僧國を以て。さびしく。你を易りの是
や。よ。你が父も陳留へ逃げたり。今まよくあられ来る。曹操かへて
右ひつりぎも。決つけと。呂伯奢をうち陳宮を再拜して足下若曹
操を助ひ。曹氏の門あらぐれ此村よ滅ば。ことよ官をまそ
く。朝敵を誅伐せんと。御志ざへまそあり。かくと。曹操よ向て
かけ。你と。陳宮を持みて休息せしも。我ハ西乃村よ行と。差酒
を沽来る。と。自ら驢馬よ乗て出よ。曹操ハ陳宮と共よ休息
と居しげ。夜やふあてがひ後よ刀を磨音しと。曹操あら
く思ひ密く。陳宮まくやき。此呂伯奢へよまよと。叔父もあ
らば。今夜自ら酒を沽んと。牛もあけたる。若我ホを捕
へく恩賞を望む心もやあらんと。一人ひそんで立すをと。刀を

磨音を休め。三三人の声ともなくあくびとひけみで曹操が見
た。さうしたるはあつた。さうして斬くられると。二人劍を抜くと。せへ男
女をきらをぎへ人まで切あつた。其後厨刀をもたらすよ生なる猪をつま
ぎと見つかる。陳宮もあつて後悔して曰。是猪をあらて我かどもと
あもんじぬるを曹操卒ふよ科ちきんを殺せり。曹操が曰く。悔る共
及びト早々馬よ乗て逃去ん。ひざくせなと。飛がとく二里をくろ逃伸
及む。向より呂伯奢驢馬みうち乗酒樽二門鞍よほけ手よ菓を持
てうるうる来ふ。二人走をとくよし早回り。うへぞ。我をと
よ一匹の猪を用意せり。平に一宿。一夕と呼。うし色が曹操答て片時
も急ぐ路よこひとくまと。馬よ鞭打て走り。屹と心はいそ取そ
回。呂伯奢を呼と馬より引ト。一刀よ胸核を突き。陳宮あ

ひうひと白く。知であらう。是非も。今るよ。呂伯奢を殺せる。曹
操が。あつて家より。妻子の殺され。我をよもた。立べ
きう陳宮が曰あらば。罪あきこと。知くあらば。不義あ。曹操が曰く。寧
我をして天下の人よ負む。天下の人をして我よ負ふ。もとと休よ
と云ひ。陳宮黙然と。ことを。をもひま。曹操が一言の内ほひへん
トを奪へんと思心あり。千載の後までも。曹操の一言をや。曹操を
疾まどつふ。その夜月の光よ路を求めて。五六里をくら。落やき。
うなどらうる家よ宿。馬よりたりと休み。しがれ曹操。あら間り疲よ。前後
もあらび。宿へ。陳宮もよ思へ。我をも。曹操を天下の忠臣。う
こゑ。官をともと伴ひきた。よ元来この人も狼虎の野心をさ
はえむ不當人。今日を一殺。さざんが。後ようある。よ。天下の禍を

をもんあらだ今刺あらきとと劍を抜く立すりまびゆくよが伴るひ
来ゆるべトを正さん為り。今あきと殺と不美るべと。又劍を鞘
ゆねめ夜まだ明ざる馬をばして東郡へ落ゆたる曹操夢てめぐ
陳宮を尋ねきども見なきうけみがね我が不美を疾んでとて
るるらんこと急よ馬ようち乗夜を日よにと陳留へませゆく

曹操起兵伐董卓

曹操とては陳留より下着と父をもてて對面し。子のやうをあつて又
まよ拂りて義兵を發さんと譏け。父曹操が曰く。家よ
貯ぐたる物ちりげんが大儀の計略うちひじ。此とあらよ衛弘を
いふ。ある。家あくまで富榮て。固より忠義の志あり。あの
人を決らい共よ大儀を思立べ。曹操即ち酒宴を設けて衛

弘を請ド再拜して。董卓いま逆威をあらひ。天子を癒へ
民を害せ某忠を益し。再び天下を治めんと存ぞ。も力足ぞ
して大儀を思ひ立とあくからず。足下元来忠義の心あらき丈夫
あるを知て是や。よ告や。ところと云け。バ衛弘曰く。久々義
兵を真さんと思へども力を極もどまること眼む。御辺まよと
忠義の心あらば。よが家財を以て助くべ。曹操大よろあび先詔
を受たりと号ア。四方よ觸をまじ。与力の兵を催し。白き旗を
たてて忠義の二字を出仕ケ。次日より。きたり集キ。よ
雨乃ど。一人もと生。某の衛國の入。樂進字ハ文謙。とづらひ。
ねがふともよ董卓を伐んと云々。即ち用と帳前。吏と
又兄弟二人。夏侯惇字ハ元讓。夏侯淵字ハ妙才。とづらひ。沛国

譙郡ろりあり。屈強の兵三千余騎よて馳加る。元来曹操が父曹嵩（そう）ハ夏侯氏の子なり。曹氏よ養ひ、して姓を改へし。今この二人もまゐらうに一族あひしへ。共よ心中の計を議む。ね日をぎく。曹操が兄弟。曹仁字ハ子孝。曹洪字ハ子廣。千余騎と引く。末り加へる。曹操是より毎日軍馬を調練する。又一人鎗を提ぐ。生末り。將軍よ從て逆臣と誅せんと云ふ。其名を問ふ。山陽鉅鹿（きゆくろく）乃人よて。李典字ハ曼成。荅曹操衛弘大よすうらび。家財を惜まざり。大刀。薙刀。甲冑。類を造り。林木をもろく。五千余騎の兵を調て。陳留よ陣を取る。不囲く。の勢を待す。金銀を送り。兵糧を運んぐ。忠義を扶るものも多うけ。もの財物紹へ。渤海郡よあつて。曹義（ぎ）を扶る。文よ曰く。

操が義兵を興さとは。急ぎ麾下の大将をあつて。兵を集む。計と議。くる年比の大將。田豐。沮授。許攸。審配。郭図。顏良。文醜。えんごのふきのども。三の忠義の志。さへ。をはげ。即時。三万余騎を起し。曹操よ力を尽せん。とく夜を日よ継ぐ。をせのむ。曹操が諸団へ觸れる檄文よ曰く。

操等謹以大義一布告天下。董卓歎天罔地滅國弑君穢亂宮禁。残害生靈。狠戾不仁罪惡充積。今奉天子密詔大集義兵。欲掃清華夏。勦戮群凶。望真仁義之師。來赴忠烈之會。扶持王室。拯救黎民。檄文到日速可奉行。

繪本通俗三國志初編卷之四



是を見て凶ての諸侯兵を起と人によへ

第一鎮後將軍南陽太守袁術字公略

第二鎮冀州刺史韓馥字文節

第三鎮豫州刺史孔融字公繙

第四鎮兗州刺史劉岱字公山

第五鎮河內郡太守王匡字公節

第六鎮陳留太守張邈字孟竇

第七鎮東郡太守喬瑁字元偉

第八鎮山陽太守袁遺字伯業

第九鎮清北相鮑信字允誠

第十鎮北海太守孔融字文舉

第十一鎮徐州刺史陶謙字恭祖

第十三鎮西涼太守馬騰字壽成

第十四鎮北平太守公孫瓚字伯圭

第十五鎮上黨太守張揚字稚叔

第十六鎮烏程侯長沙太守孫堅字文臺

第十七鎮祁鄉侯渤海太守袁紹字本初

右ノノ其勢或ハ二万或ハ三万思くよ洛陽をさしてせのびる中よ
も北平の大守奮武將軍公孫瓚ハ一万五千余騎よこもせつばう
德州平原縣をと通る而よ一村しげりよ桑ノ樹の中より黄ある
旗をほたる丘山も四立崎がわどうけ出らうくすうと盈く馬も

下りけどよしとくよ劉玄徳あり。なよことあよ居るふぞ
問ふ玄徳の曰く某黄巾の賊を平らげた。勧賞は平原の縣令
とあると。むべから城中にへき。ちぢく人馬の足と休公孫瓚
問て下る。是ある二人へいある人で。玄徳の曰あき。関羽張飛と。
某が弟よてひ。公孫瓚が曰うの黄巾の賊を破りたる人。今いす
官職う。玄徳の曰く。関羽ハ馬弓手。張飛ハ歩弓手。公孫瓚
が曰く惜うなべ丈夫をうげめ。今董卓乱をほこ。天下の諸
侯あきを誅せんと。御辺の微職をもと一同一逆臣を討玉
は。是あき忠義をもん。玄徳の曰よと願くへ行く忠を益さん。
張飛が曰さここに某が董卓を殺こんと。止め玉が
んば。今日の乱ハ生来ひつて。関羽が曰く。無用のとひひふひと早く

支度あるじと。用意一と備え。玄徳五六騎を引て公
孫瓚と共にうち立す。うそと六ヶ園の諸侯益く會合」と。
うけあうぐる陣。二百余里より。數十万の兵をもつて地もの
らうべ。三公より曹操大よもやらび。牛を截馬を殺して計と
を議。けよ。太守王匡が曰。今ともに義兵を起して逆賊を伐れ
を。はらく盟主を立す。惣軍の首將と。其後よもよしだ。諸人
みの義もうべと。誰彼と相もばり。曹操が曰く。袁紹へに
代よど三公よ昇り。門下に故吏多く。漢の名将の後胤うきよ
く盟主を定むじ。袁紹再三辭退しけども。諸人よもよしだ。上
きべ辭をよ詞。次日三重の壇を築き。五方の旗とす。上
又白旄黄鉞。兵符印綬をばらね。袁紹衣冠をそのえ。劍を

帶て壇の代り香をたき再拜と誓て曰く

漢室不幸皇綱失統賊臣董卓無不豐冦從害禍

加焉

至尊一鹿流百姓大懼論夷社稷剪翦復四海紹
等對合義兵並赴國難凡我同盟齊心戮力以致臣節殞首喪元必無二心有渝此盟
俾下墜其命無中充遺育上自王天后土祖宗明靈實

皆鑑之

盟いよりて血をさう。諸将及び國の軍勢までも慷慨と疾
をあらし歯をくぐりぞうて踊りあらず逆臣を討んと勇ましも。
其後袁紹壇をひり大將の座を著けよ。國の諸侯も

禮をわざて次第に列坐し酒宴以て盟主とし功あるらむとて賞
人を壓心ろ。你は豈を以て盟主とし功あるらむとて賞
罪あるらむとて四討せん。國は常刑あり。軍は紀律あり。名は
あんぞ忘るべからず。子弟の袁術へ兵糧を奉行して諸大將又
分つだ。誰も又先手をとんと。汜水関を攻めがらん長沙の太守
孫堅が曰く。某不才なりとも願くは先鋒たらん袁紹が曰く。御辺の
勇烈まことに先手の職は當らじとて盃をもくめて祝しけど。
孫堅まことに手勢を引く。汜水関を守らふも急ぎこの
のとくと相府に住進り。李儒とすら董卓を見へて曰。天下の
諸侯曹操うちならん。兵を與えて汜水関を攻ぐる。早く討手を向
びしと敵よ難所をあらう。田へと大事みてひん。此時董

董卓

呂布



卓へ酒色よあがめて居たり。一びあざうひそひとせんと議ちるふ
よ呂布あざ笑て曰く。まほもひくをくすりあふ。某敵の大勢
を见て。芥のどくに存じるあり。幽々の諸侯の首を一々討とう。
大地は鳥鼠をばんとら是呂布が願ひよてひ早く兵を率一歩
向ん董卓よろまんで曰く。呂布があらん。ぎりへ枕を高くして安臥
じ。時二人きくと生て難を割よつて牛の刀を用ひ。いの度
軍よ呂布を用ひかまくもあ。某囮向く幽々の諸侯の首と
らると囊をさぐりて物をとり。匕もざとくあらんと呼り。皆が謫入ふ
れを。身の長九尺あまり。力ある男なり。荒あまと面へ血をそ
ぎたがごとく虎体。狼腰。豹頭。狼臂。関西の人は華雄といふ。猛將
なり。董卓よよろあび好みやたりと。驍騎校尉よ封ト

て五万の勢力を授け李肅胡軒趙岑を副将とし行と記水関と守
らむ。此より袁紹が方へ聞るに至り清北乃将鮑信といふも密々
弟の鮑忠を呼んで申すと長沙の太守孫堅。ことよ先手を望み
うへ我示いは後陣はあつて功名をとあるべく。你小路をまう
て記水関はよせ一攻せめと敵をあくらみと云ひけど鮑忠三千余騎
を率すと。ひとよ小路よりあまと喊の声をあざわらすあり。一抜
て攻上り。今泰りの華雄が勢。ともや敵もとよせざるを。ひも
あべ五百余騎をもくと。真地暗よ切て。鮑忠が三千余騎
真倒さぬようけ落さき。散て走り。華雄馬を飛
て追うけ。鮑忠を一刀よ斬て落し。首を取て洛陽へ上せられ
董卓甚ぞよろじ。又千余騎をさへもと重く恩賞を

与へ関の前より陣を取て出で戰とあらむ。長沙の太守孫堅へ
鮑忠がぬけだりと討れたるもあらば。程普。黃蓋。韓當。祖
茂。四人の大將を従へて記水關はあよせ。逆臣を扶へる正夫す
ぞ早く降らざるを呼りんと華雄が副將胡軒らををひそ
すて出。孫堅が首を取ること望みられバ。華雄即ち五千余騎を分
討して出。胡軒真先より馬を止め。関を下りて向ひれバ。孫堅自ら戰
あらぶ。胡軒真先より馬を止め。関を下りて向ひれバ。孫堅自ら戰
はんことをす。程普等を舞ふと討て出。戰二三合よて胡軒喉を
突きとまゝ馬より落て死へ。孫堅勢は衆て記水關をう
ちやぶらんと逃る敵は追ひて攻とりて。華雄兵を下知し
て兩の弓からて射させけり。孫堅も兵を收め。梁東の陣
をこり。胡軒が首を袁紹が本陣より送り。袁術より告こ。兵糧と求

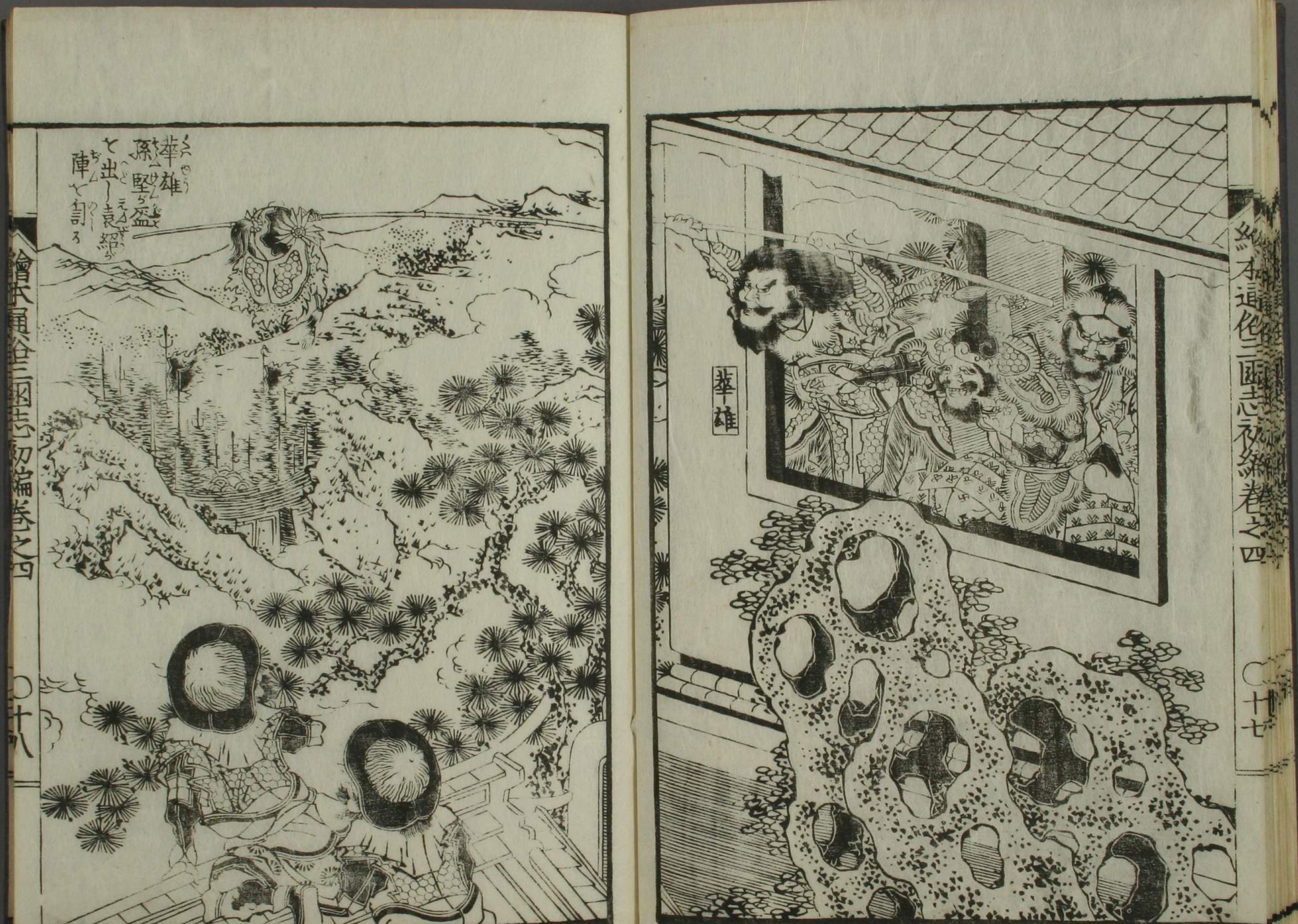
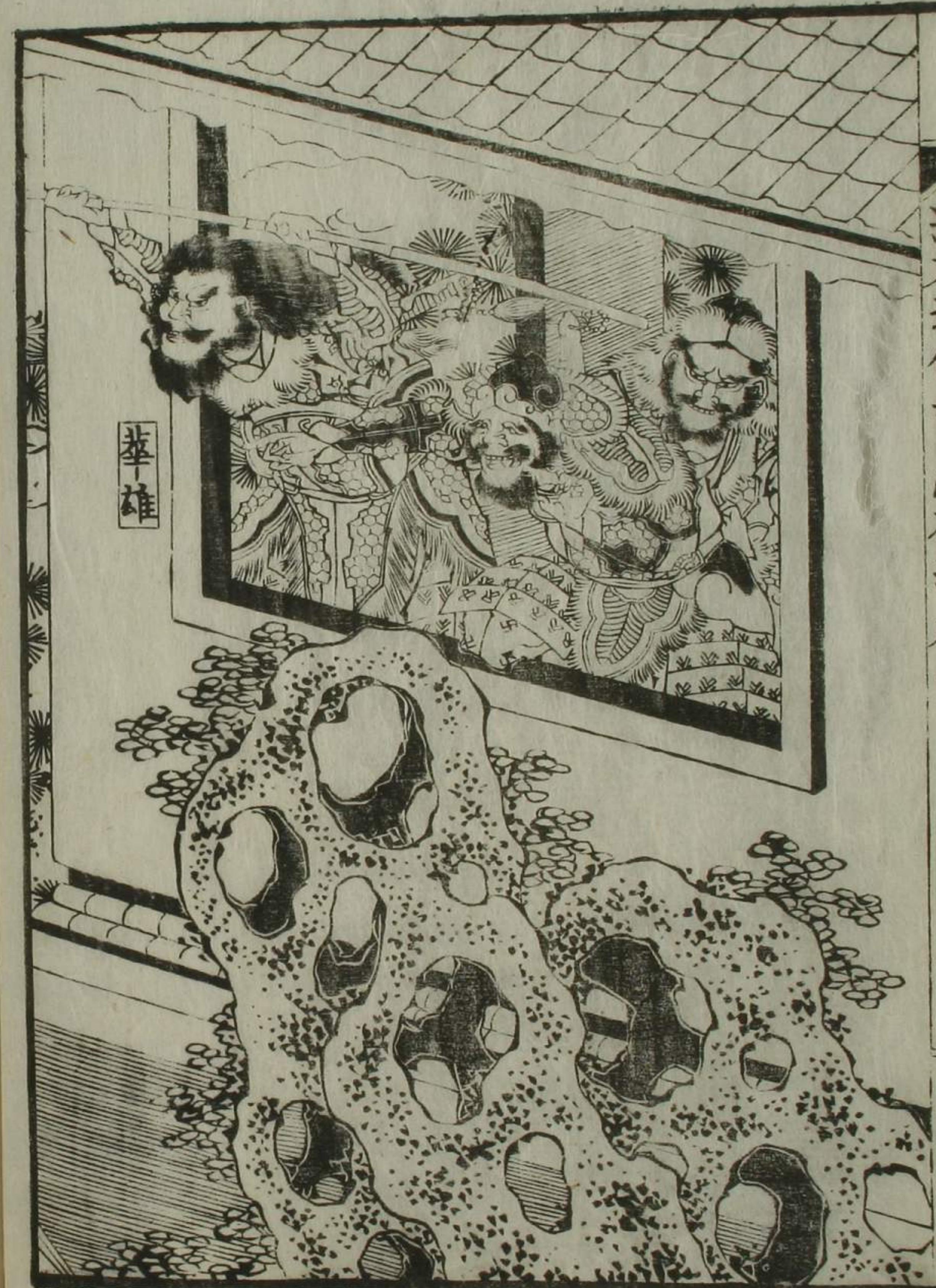
む。ある人孫堅を恨むとあつて。袁術より私詔けり。孫堅は江東の
猛き虎す。若洛陽を破る。董卓をえりあが。あるとど又禍ひ
をあらん。おと狼などのぞひて席を得る。志じ。今兵糧よ
法を失せて。おと狼の乱を散せず。おと狼の後言。且べ袁術によも
と思ひ。はるよ兵糧をあたへざり。おと狼の因に孫堅が陣より兵糧よ
りをうな。軍中とのがくら乱を疲れ。怠り居なり。華雄
が勢ひの体を見。急よ李甫より報せ。李甫まで華雄に向ひ
曰く。ヨリ二軍を引て小路を抜き。孫堅が陣の後をせひ。御
辺へ夜半より比関前より。よせ玉の孫堅をもくらで擒とあらん。華
雄よろまんで。その夜のうちに月とよめをうちあらば。鼓をうち
喊をうちて真地暗よ斬てから孫堅大よがどう兵を下知

と戦ふ。後より李甫が勢走り、火をうけ、火を。孫堅が勢。前後よ度て失うへ。まとまら、飢はれ、弓をもたらし、引ひぬど。火の中烟りの内もひそぎ上を下へと騒動を。孫堅もうくよ逃き、生馬をうへて走り、程普、黃蓋ともうけ、萬からきて。祖茂一人相従ぐり。後より華雄兵を驅て飛がどくよ追うけ。もとよ近くあつけと。孫堅取て回して十合あまり。戰ひ。又馬で打そく走りける。華雄は身を追はれ、孫堅弓矢をはず。引くと二筋まで放ちけた。もとあく下へ第三矢をほがひ。あぬりよ強く引そ弓一よ折り。射のまへたる矢をうそぐりと。林内内よ逃へけ。祖茂走はひとやりく君の署を。盛の志うへ甚あきとくと目。ようりひや。華雄いばくまでも追

うけ。早くねいと某よあくと。孫堅がよもとと馬上よと。祖茂が盛と取る。左右よましと走りけど。案のどく朱き盃と者なるものが東へ走るを見て。華雄兵を下知。と。ぶがとくよあつくる。祖茂今へ是まをうと思ひ。署とも盛ともねひで。うたからうる。在家の焚残りたる柱立て。ようけ。身をひとめ。大木の後よくし。身を追手の兵よ月を。よあうき。ゆくと刃を。切りの月を。雨がある。よそひ矢を放ち。りうが。恐がらかうて。さればよくある。よそひ孫堅のびひる討と。声によ呼へり。華雄馬をとよして林内内。尋ねへる。祖茂の大木の隣よく。華雄が業と。刃を。不意よ討んと。うけ。華雄急度刃を。けて。雷うちの落うるがとく。喫ひ。やり。力よ祖茂を斬。その首を取くあづく

と引くと孫堅のひの間よりき命を扶う敗軍をあそめ
る。討れるものねをあらむ。大ども祖茂が命よりと討死
あらうとふと。悲き涙をあがして。うげて悲しも袁紹も
本陣は在り。此注進をき。今孫堅も破れて。そのまゝぐ
外より敵くるらば勝よ乗て討て生を。早く陣となり
せらへよと。人を馳て呼うる。困る諸侯であらうてや
ら。鮑將軍の弟ねが生きて其身も討き。若干の軍馬を
うあるひ。今又孫堅も破きて。味方も氣を隣す。ひくと
べきこと。けき。一人も言を生とえ。袁紹もまねく坐
中を立す。公孫瓚が後よ立てる。二人其自ら尋常も。べ冷笑
て居たりけり。即ち問て曰く。公孫太守後よ立たゞ何人ぞ。公孫

瓚答へ曰く。されば某なり。同窓の朋友よ。平原の令劉備字は玄
徳よ。曹操が曰く。黄巾の賊を破り一人。公孫瓚が曰く。幸
紹が曰く。玄徳は漢室の宗親也。坐をあへよ。玄徳辞りと曰く。
某は小縣の令也。ひげひそ坐をうそとひん袁紹が曰く。まき御辺
乃名爵をうそひもあらうだ。もと帝室の宗親よ。と困つため
よ功多きをうそひもあらう。玄徳拜謝して赤坐よ著々とを関羽
張飛そのじろよ立。まづりくありて。存候ろときた。華雄兵を引
てあゝを。あまき卒よ孫堅の朱き盃をさへが。まづり罵り
ひと告げ。袁紹が曰く。たまう行く。敵をやぶらん。心ち袁術
が後より。武勇の譽をうたる。俞涉といふ大将をとて出。某願くわ
くんとく。兵を引てうちて。生戦ひ三合ちまづる。華雄よ。一刀よ



斬ことさしたり。敗軍走りたり。其すを告ひまば。一座の諸侯を
ふぞろく。付よ太守韓馥。白く我よ一人の名将潘鳳といふものあつ。
華雄をたまく討ひて。袁紹よろあん。それまでとひれど。潘鳳
声は應ど。手よろきる斧を提げ馬を飛んで生えり。あがらく
ありと人きなり。潘鳳も一刀よ斬きたりと告げ。馬を飛んで坐り。醒
て色を失ひ。袁紹股を拍て嘆びて曰く。おれは大將の顔
良文醜。二人へ。勢をもよそひまざらば。若一人あうとも。さへよ
あらば。華雄を討んと手内より。國ころ諸侯多くの大將あ
り。とひかこむ。華雄よ敵も。大將一人も。天下のあざむ。後代
蓋あらびや。とひけ。一座黙然と。と答るものあ。時も階下よ
り。人をも出で。某ねがから。華雄が首をどうと献まつらんと。呼ひれ

其声鐘のひくがとくあるけれを。諸人おどろひ。あれとえろ。其
人身の長九尺五寸。鬚の長さ二尺八寸。丹鳳の眼。臥蚕の眉。面へ
重慶のびとくあり。袁紹問て曰く。あれは。公孫瓈。荅て曰く。
あとは玄德の弟。関羽。といふ。あらう。袁紹曰く。いあら。官職あ
る。公孫瓈曰く。玄徳よ從て馬弓手あり。袁術曰く。いあら。官職あ
る。怒り。仰へ。國ころ諸侯よ大將を。侮る。馬弓手。手を分と。と争る。
きみ出で舌を動かす。やうのども。此曲をのを。乱棒よううち。せと
罵り。けき。曹操急よ諫めて曰く。あらう。怒りを止め。あの人をで
よ大言を吐出せらう。へ定て其身の覺あらん。まづ出向く。も
勝とんべ罪を正す。袁紹曰く。馬弓手。手を出でて戦う。あ
る。華雄よ笑き。曹操曰く。あら人の体。よろほねよあら。華

雄よも馬弓手といふもかまど。関羽が曰く。某をこそ華雄が首をこらせんべからず。軍法より行はれども。曹操が曰く。そや敵も近付とり。ふの酒を呑て戦へと。あたへやうる酒とあひそり。関羽曰く。先華雄が首をそり秉りと。此酒を飲べと。八十二斤の青竜力を提さげ馬を飛とせとせぐ。困て諸侯より勝負ひとて危ぶむ不文と。うる鼓をあえ滅び。天地をひびく。山川動搖。けし。諸人見る色をうきす。関羽へ馬を飛とてまわるたゞ。せり。敵の大勢を八方よ追散。猛虎の千羊の群よ入がとく。直ちに中軍よりけつた。一刀よ華雄と斬て落し。首を取て引く。と。校方の敵軍。そろ威風。とそれで近付くる。関羽あづくと本ほよう。華雄が首を坐の真中よあけ正と。また

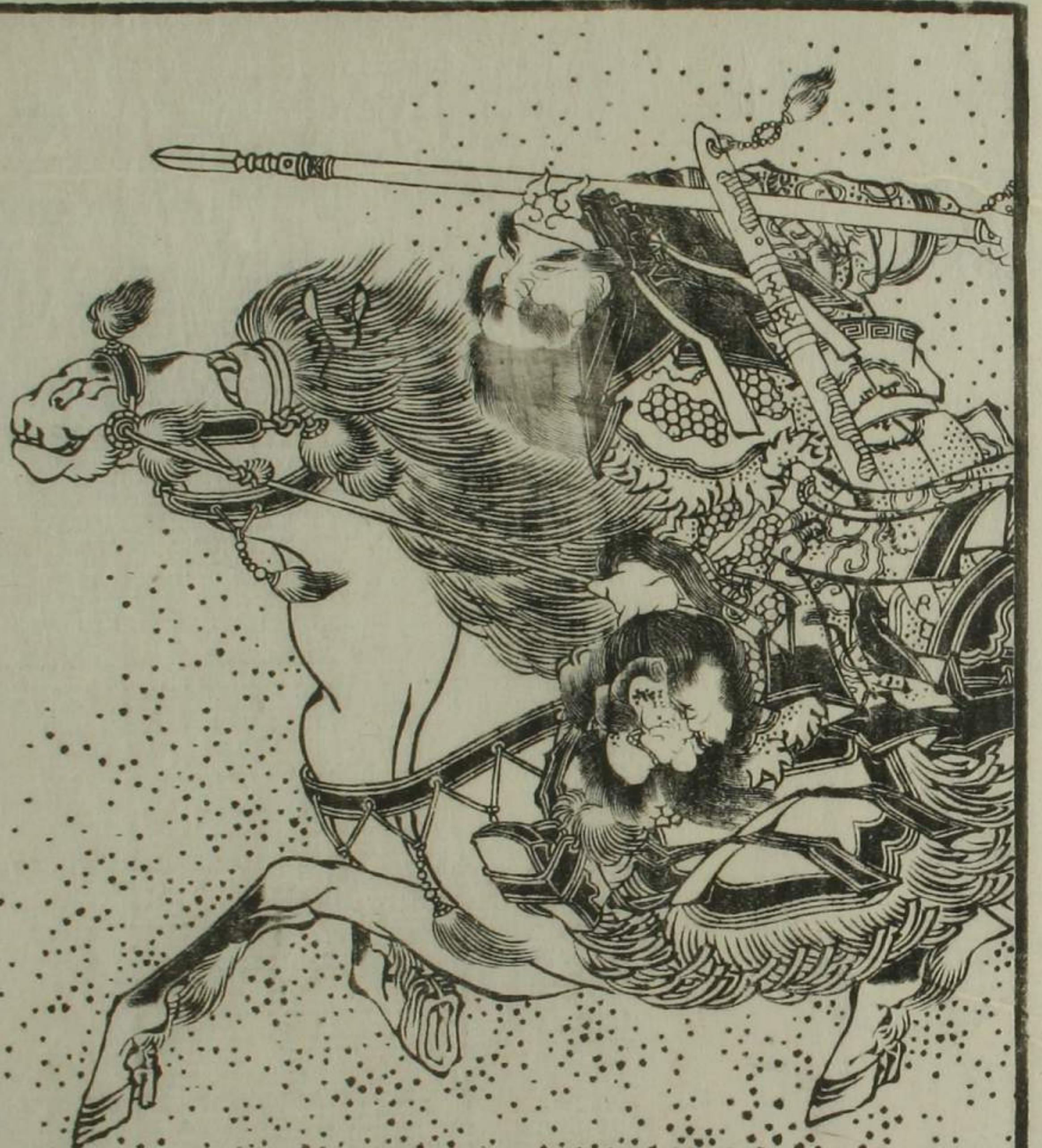
ひ酒を飲り。其酒あやあた。うち。國の諸侯大よる。び。一度よまきをあげ。のめき。忽ち玄徳の後より。長八尺をうる。男虎鬚をあざる。まなて。眼の光り星のとく。あるが雷ひどき声と叫んで曰く。関羽をぞよ華雄を斬り。此とまみ乗て洛中よ攻入。董卓を生取。もいづれ。乃射をう期。をぞよどとて。一丈八尺の蛇矛を提さげ馬を乗て出んと。諸人よまきとて。とば張り飛る。袁術大よ怒て曰く。汝の諸侯高官の名将も自ら譲りて口を緘るよ。你は縣令。乃手下よ居て争さる。とあり。べき追立。こうち出せ。と罵り。されば曹操諫。曰く。ちとぞ功あらば。因心賞をと。とく。貴賤の別。あらん。袁術曰く。もー。おの奴原を用ひ。我へうる。と

本國より回るを。曹操が曰く。争う一言より多く是れ。本どの大事を廢
ちべし。やと。ひそく公孫瓈も告て。玄德。闘羽。張飛を伴
あそび退らし。其後。國の諸侯が。陣中よりハリ。曹操
操ひそく。玄徳の方へ酒肴を送り。その怒を慰めける。

呂布大戰虎牢關

去り。華雄を討して敗軍盈く。汜水関より逃り。れ
べ。李淵も。ふと。早馬うけ。洛陽へ急を告。董卓以て
わらは。仰天。李儒を以て計を。辟定を。李儒。受け
て。今。味方大將を討き。寄手とも。勢ひよの。是皆袁
紹を盟主と。諸方の悪黨。あるもろもん。袁紹。叔
父。袁隗。太傳。袁隗。官。都の内。ある。若内。寇を。せふ。

由々。さき。大の。あら。まつ。すれ。と。除く。後。丞相。自ら。脚馬
を。出。ひり。逆徒の。退治。踵を。めぐらさ。董卓。ふよ。うち。が。
李催。郭汜。五百余騎。主。授け。太傳。袁隗。が。家。を。囲。を。男女
一人。もの。を。も。切殺。させ。其後。二千人。を。斬。せ。一手。が。分つ。
一手。が。李催。郭汜。を。大將。として。其の勢。五万。余騎。汜水の。闕を
堅り。て。生て。戦ふ。ところ。一手。が。董卓。自ら。十五万。の。勢。と。率
と。李儒。呂布。張濟。樊稠。ホ。を。従。ぐ。虎牢。闕。を。ぞ。固め。る。の
関。洛陽。を。去。と。五十里。よ。と。若兵。を。も。む。付。闕。の。諸侯
の。通路。を。塞。る。第一の。要害。を。き。呂布。ヨ。三万。の。精兵。を。川。に。
闕。よ。外。す。陣。を。と。ら。る。ま。の。由。傳。て。袁紹。が。陣。よ。ま。へ。け。き。が。急。ぎ。闕
こ。の。諸侯。を。あ。ら。か。計。み。と。を。議。ら。る。曹操。が。曰。董卓。自ら。虎



牢関を堅く守て味方の諸侯の通路をふさぐ。味方も二手よ分
てもきを攻べ。袁紹あつたとて王匡。鮑信喬瑁袁遺孔融張揚
陶謙公孫瓌ハシ岡の諸侯を分て虎牢関を守らしめ曹操と遊
兵三千と弱らん方をそそぐむハシ岡の諸侯兵を引てあよせ。
番よ河内乃太守王匡そち人を立て進け生ハロ布あれ奴
てだぢく三千余騎を引て生むか王匡馬をもみて敵の陣を忍
てたせば呂布真先よまと出ニ又乃東鬢よ紫金冠をいどき。
朱地の錦の百花袍を着て連環の鎧をうなね獅子皮の帯よ
弓箭をうけ手よ畫桿の方天戟をそり無双の名馬赤兎とい
へまようち猗住来馳騁するありまよいきぬよのほ孫のやのと
へ見ゆ。呂布ハ武士の中よて第一赤兎ハ馬の中よて第一あきふ世
の人の口ぞよしよ人中ノ呂布馬中ノ赤兎云けむも理うゑよ

よ。こきバ寄手ノ大勢もさきよ氣を呑れて。もくまくもくろよ
あうりひれば王匡左右をうりと。誰う坐て戦うんとひくろみ河内の
猛将方悦こしらも鎧を提さげとうけ出。三合戦うふと曰ふ
呂布よ馬より転て落さる王匡よ怖し馬をうつて走りと。呂
布勢よ乗て追うけ左よ実右よ实。大勢の中を斬てまやうべ
寄手ノ勢討キモのねをうへば王匡もよあらうくと之から喬
瑁袁遺二手ノ勢一度よくりと防ぎ戦う。王匡をとくに生ひ呂布
ハ大々打勝長追させと。さざへと本陣よる寄手の敗軍を收
めで三十里あり。よまと呂布が英雄敵とぞきをのあ。ばざせんと義す
こきよ。片候乃兵走りきたり。呂布又兵を引て此不人をよまと

つげ
告け。諸人ふふぞうに急ぎ岡の上よりと望む。呂
布。一軍虎狼のどく。錦荔旗とひらみ。進ま来て討てかゝる。上
黨の太守張揚内より穆順と名をひく。大将あり。呂布がまを
見て鎗を提さげて馬を牛。只一合よと馬よりトヘ斬てあと
さきられ。ハケ函の諸侯。多く膽をひき。又北海の太守孔融
内よ。武安國といふ。人カあり。進と坐ぐ。下へ某太守の恩を
受す。千年あみきり。呂布が首をそろて忠と致さうと。重さ
五十斤よ造り。鉄の鎧よ。五尺あみりよ柄をはげて。重げ
打こう。馬をにじて坐り。呂布もととと見て。やきづくふえゆる
敵うれと。戦を毎つと十合あす。戦ふと云うが。武安國腕
を斬りとまれ。鎧を地より落と。馬をうつて走りけを。

八箇の諸侯相争りよからず武安國をもとひらるる袁紹此す
きひといふせんと議しけれ。曹操が曰く。呂布。英雄天下よ敵也。
十、箇の諸侯を一手よろ。一斉よからず呂布を生取。又呂布も
一誅せらま。董卓自ら滅び。又取よ早馬きたり。呂布又兵を
引くふとせなりと告げ。袁紹急ぎ。八人の諸侯よ命じて防ぐ
リむ。呂布直ちよ公孫瓚が陣よ討とうりけど。公孫瓚樂を盡
りむ。呂布眼をいぢり喚ひてうしりけど。公孫
瓚膽をひきと。一まもちど。馬をうちと走りけるを。呂布
慾よ追きたる。呂布乗る。赤兎馬へ。一日よ千里を走り。其
疾す猛風のどくを。とどよ追付。ひとしりふともる。二
人の大將。大の眼をいぢり。虎鬚もあさり。あざりて丈八

の弟を舞へ。真横にうけ出。呂布走る。す。燕人張
飛あくよあつとよびり。呂布き肉と。公孫瓚をうち
と。張飛と附うるまでせり。戦ふ。困この諸侯。張飛が鎧
の志だひよ乱る。心の内あやぶもとよろよ。張飛
と。飛ま。一声大よ喚き。心の内あやぶもとよろよ。今をもと金
がかる。よよと。か。八十二斤の青竜力。打づり。馬と赤
て討。か。呂布走る。もあそひ。関羽。張飛と。三十余合
戦ひ。呂布と。よよき。火とちうて戦ひ。呂布と。諸侯
て兄弟。三。呂布と。よよき。火とちうて戦ひ。呂布と。馬をほへ
れ。よよき。酒よ醉たる。呂布と。氣と励ま。戦
と。よよき。玄徳の面を突く。あたら。よろと。関羽。張飛と。
よよき。

まもちく。切ほけ。呂布。うよ。とや思ひ。とん馬をうへて
引退。ぞくを。玄徳勢。ひよ。乗て。追。うけ。が。困。の。諸侯
相。ぐりよ。攻。う。喊。の。声。大。震。ふ。呂布。が。勢。大。半。討。と。虎牢
関。へ。逃。入。と。関羽。張飛。閨門。の。前。まで。お。よ。そ。遙。高。と
望。め。青。羅。の。金。蓋。風。よ。志。な。が。と。動。搖。を。張飛。大。音
を。あげ。ゆき。が。る。董卓。と。生。取。を。あ。ま。す。と。あ。ち。草。を。斬。て。根。を
あら。や。たり。董卓。と。生。取。を。あ。ま。す。と。あ。ち。草。を。斬。て。根。を
の。ぞ。く。あ。り。ゆ。け。や。人。と。そ。馬。を。う。り。と。登。ら。ん。と。と。る。櫓。の
の。の。上。す。り。石。を。ち。び。り。射。ふ。う。と。矢。雨。の。ど。と。あ。う。と。う。張。飛
の。の。の。う。け。此。を。在。よ。傳。と。虎。牢。閨。の。三。戦。と。云。

